



## 通信 i・ストリーム（法人版）VOL. 24



文：小川 康成  
ファイナンシャル・プランナー

すっかり寒くなり、朝晩にコートが欲しくなる日が増えてきました。

これから、年末に向けて慌ただしい日々が続く事になりますが、風邪などひかないよう体調管理に気を付けて下さい。

慌たらしさと同時に増えてくるのが交通事故です。経営者の皆様には、常日頃より社員さんの安全運転教育に気を配っていらっしゃると思いますが、社員さんが事故を起こせば、保険料が高くなるだけではなく、会社としての信用や事故解決に費やす労力も見えない損失として大きなものです。

本日は、安全運転に係るトピックスを2つご紹介致します。

### 睡眠時無呼吸症候群（SAS）予兆チェックサービス【無料】

\*睡眠時無呼吸症候群（SAS：サス）は眠っている間に呼吸が止まる病気です。10秒以上の気道内の気流停止を「無呼吸」とし、無呼吸が一晩で30回以上もしくは1時間に5回以上続く状態です。

SASの症状のひとつである、「いびき」をスマートフォンでチェックする、無料の新たなサービスです。



『SAS予兆チェックサービス』は、社員さんやドライバーさんのスマートフォンに無料のアプリをダウンロードして頂き、就寝時にアプリを起動し、枕元に置いておだけ。という極めて簡単な作業です。

企業の責任者の方へ結果データをまとめて報告しますので、4段階「要注意\*\*」「要注意\*」「やや注意」「問題無し」の評価の内、要注意の社員さんの配置の点検や、作業内容の考慮などが可能です。深刻な場合は医師による治療を受けて頂く事で、重大な事故を未然に防ぐことになり、社員さんの健康にも寄与します。

寝ている間の事なので、気が付く事が難しく、潜在的な患者は多いと思われ、気が付かないうちに日常生活に支障をきたすこととなります。

例えば、夜の睡眠が浅いことで、運転中の居眠りによる交通事故、工場での作業効率の低下や重大事故を引き起こす原因となります。

100人いれば、9%の重中程度の患者数がおり、44名の軽患者がいるというデータもあります。



生産性の向上、重大事故の未然防止、突然死の予防に。気になる社員さんがいる場合試してみてもは如何でしょうか。お客様向けサービスなので無料で実施できます。お気軽にお問合せ下さい。

# FOUR SAFETY ～『ながら運転』防止支援サービス～

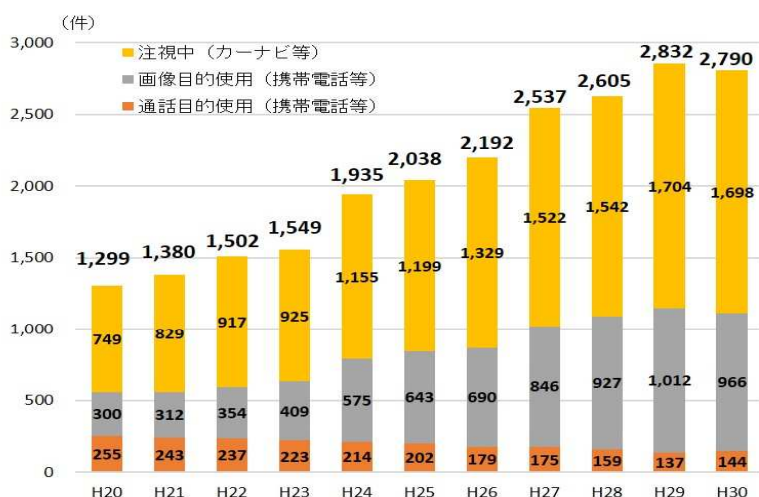
スマホを使用しながら運転防止サービス（端末のみ有料）

警察庁の調べによると、平成 30 年度の携帯電話使用に係る交通死亡事故発生件数は、42 件と増えております。これは、あくまで携帯電話の使用が事故検証で発覚した件数なので、発覚しなかった件数を予想すれば、これよりもはるかに多い件数で有る事が推察されます。

## 携帯電話使用等に係る交通事故発生状況（平成 30 年中）

平成 30 年中の携帯電話使用等に係る交通事故件数は、2,790 件。過去 5 年間で約 1.4 倍に増加しており、カーナビ等を注視中の事故が多く発生しています。また、死亡事故率を比較すると携帯電話使用等の場合には、使用なしと比較して死亡率が約 2.1 倍でした。

携帯電話使用等に係る使用状況別交通事故件数の推移



(注)・重複件数を除いているため、各項目の合計と図の総件数とは異なる。

	H25	H26	H27	H28	H29	H30
全事故	2,038	2,192	2,537	2,605	2,832	2,790
うち死亡事故	36	31	39	36	40	42

死亡事故率比較（平成30年）



(注)・調査不能は除外した。

警察庁ホームページより

ながら運転を物理的に無くすため、走行中の携帯電話使用を不可能にする専用アプリがあります。この専用アプリはエンジン始動で、自動的に起動し、走行中の携帯電話やメール・LINE の使用を出来なくするサービスです。

導入は専用のシガープラグ型端末（1 台 4,380 円）を購入、車両のソケットに差し込みます。あとは、社員さんの携帯に無料の専用アプリを導入しておくだけで、エンジン始動と共に携帯電話の使用ができなくなります。

\*携帯電話を使用したい時は停車してエンジンを切ると使用できます。



社有車での事故は、企業にとって社会的にも時間的にも保険料でも大きな損失となります。事故を未然に防ぐ手立てもハイテク化してきています。ご興味がありましたらお声がけ下さい。